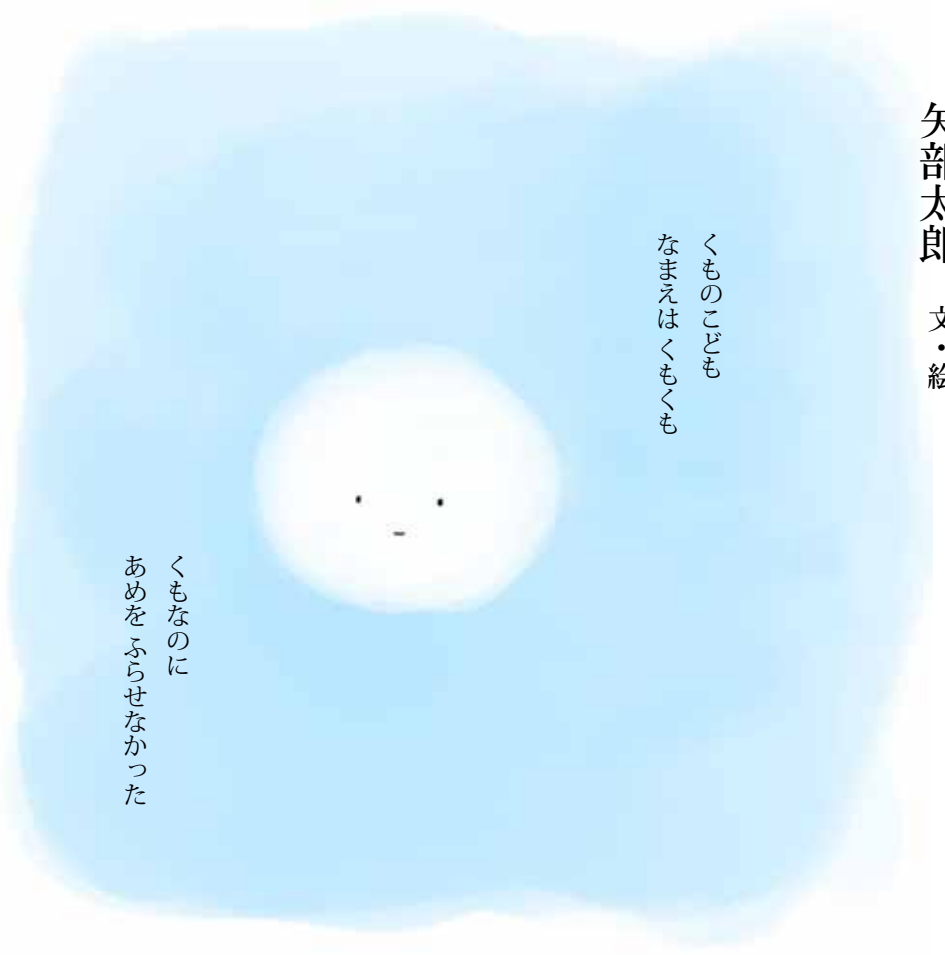


あめをふらせないくも

矢部太郎 文・絵



くものこども
なまよはくもくも

くものこ
あめをふらせなかった

みんなはたくさん
あめをふらせるのに

しとしと
ぞろぞろ

じやぶじやぶ
ぱらぱら

やまをぬらしたり
かわをはやくしたり

きをそだてたり
みずうみをあふれさせたり

でも
くもくもは

ひとつぢき
ふらせなかった



みんなは
くもくもくもくも
おおきくなった



でも
くもくもだけ
ちいさいままだった



かぜがふくと
みんなは
たのしそうに
おどった

でも
くもくもは
おどれなかった
みんなは
おどりながら
あめをふらせた
ぽつぽつ
ばらばら
ぽくぽく
じゃばじゃば
くもくもは
うまくおどれなくて
かぜに
ながされた

やまをこえ
まちをこえ
しらない
ところまでやってきた
くもくもは
つかれて
たかいやまに
こしかけた
そのとき
いっぴきの
としとったカラスが
くもくもを みていた
「おまえさんくもだね
のどがかわいたから
あめをふらせてくれないかい」

くもくもは
カラスにあやまった
「ごめんなさい
ぼくはあめを
ふらせないんです」
カラスはいった
「ああそうかい
かまやしないよ
どうせもう
ながくないんだ」
かぜがふいた
くもくもは
カラスのために
おどった
でも
くもくもは
あめをふらせない

カラスはいった

「かぜに
ながされるんじゃない

かぜにのるんだよ

そう

かぜにのると

うまくいくのさ

かぜにのって

くもは

あめをふらせて

とりはどぶのさ

かぜにのって

いろんなところへ

いったもんだ」

カラスは
とおくをみながら
いった

「じゃあ
そろそろ
さようなら」

カラスは
うごかなくなった

おおきなかぜが
ふいた

くもくもは
ちからをぬいた

すると

くもくもは

はじめて

きもちよく

そらをながれた

ぷかぷか

ほわほわ

ふわっぽ

ふわっぽ

カラスさん

ありがとう

くもくもは

カラスのことを

おもった

ぽっ

あめが

ひとしご

おちた